

定年退職が近づき、関西出身であります私にとって、故郷の京都の近くで住むか、勤務地が比較的長かった福岡に住むか、色々考えました。在任中は16回引っ越しを行い、「何処でも住めば都」と思っていたのですが、晩年の生活拠点は、家族とも話し合い、人情が温かく、食文化も豊かで、当時でも住みやすい街の上位である福岡に居を構える事といたしました。

退職後1年程は、カルチャーセンターに通ったり、今まで行けなかった海外の文化を堪能したり、自分のペースで日々が送れる楽しみを享受いたしました。しかし会社の先輩から「OB・OG会」の世話をを行う様、役員に引っ張られ、全九州300名程のお世話がボランティア活動の開始でした。退職後でも、永年培われた企業文化が息衝いていると感じました。九州SLA協会とのご縁は養成講座の募集で2003年夏、100名以上の仲間が週末、机を並べてシニアライフについて学び、73名が入会致しました。協会員152名というボランティア団体は、「タテ社会からヨコ社会」で、男社会からウーマンパワーが跋扈する異次元の世界は新鮮な感じがいたしました。この20年間でも多くの仲間が去っていきましたが共に活動を続けられたのも、人生100年時代を迎え、体験したノウハウがこれからの社会のニーズとマッチすると思われたからです。

協会活動の中で、出版事業が様々な軋轢の中、協会員の有志の方から先行出資をしていただき出版時、利益還元するという方法で、「輝くサードエイジ」の出版事業を行いました。全国で2800冊を販売、印税8%が協会に入金され、協会事業の難しさも体験致しました。

現在**マンションの理事長**を14年間行っており、この間、維持管理には先行投資を行い、警固断層の検証から震度7クラスが予想され、住民の安全と安心は絶対であり、昨年耐震診断終え、耐震補強工事の資金検討を行っております。

現在OB会のお世話と、マンションのマネジメント、そして協会の補佐の仕事と3つのボランティアがシニアライフのベースになっています。